

世界のために私ができること

久留米市立諏訪中学校 2年 井手 彩乃

私は小学六年生から卓球をしています。成長期ということもあり、買ってもらったユニフォームやシューズはすぐに小さくなってしまいます。また、技術の上達と共にラケットも合わなくなり、新しいものに新調する必要があります。以前使っていたラケットも見た目はきれいで、まだ十分に使える状態でした。

そのような中、私が愛読している「卓球王国」にマスターズ王者の方のインタビューが掲載されていました。その方はドミニカ共和国やミャンマー、ブータン、パキスタン、インドなどで国連の職員として働き、仕事の傍らで卓球を通して現地の方とコミュニケーションを図り、交流していたとの事でした。ブータンに勤務されていた際には、現地に体育館すらなく、どの家庭も貧しくてラケットやラバーなどの用具を買う習慣もないが、卓球を心から楽しむ子供の姿があったそうです。

私はこの話に衝撃を受けました。なぜなら、卓球はオリンピックやパラリンピックや世界選手権でも多くの国が出場する競技であるにも関わらず、ラケットやラバーを調達したり、練習場を確保したりするのも大変な国があると知ったからです。日本では、どこに行っても卓球ができる、それも部活ですのかクラブチームですのかなど選択肢まである、用具も自分の成長に応じて買い替えたり、好きなデザインのユニフォームを選んだりすることもできます。記事の最後には、

「不要になったラケットやシューズ、ウェアなどをブータン、ミャンマー、ペルー、ネパール、タイなどの卓球愛好家に送り返しませんか」と書いてありました。早速、以前使っていたラケットやウェアを現地の子供たちが使ってくれるならと思い、送らせてもらいました。今頃、どこかの国で、子供たちが笑顔で卓球を楽しんでくれていたら心から嬉しいです。

今、日本は物質的にとても恵まれています。

私は、卓球用品に限らず、欲しい物があると何のためらいもなく買うことができます。しかし、世界では貧困や紛争の影響で、勉強やスポーツ、娯楽などもない子供たちが沢山います。先日、ウクライナから日本に避難している、私と同じ年頃の少女がテレビに出ていました。「日本のアニメグッズは可愛いから欲しいけど、両親が慣れない日本で一生懸命に働いているのに、買ってとはいえない。」と話していました。途上国で卓球を楽しむ子供たちやアニメグッズを我慢しているウクライナの少女たちと私は、生まれた場所が違うだけでこんなに環境が違うことが許せない気持ちになりました。国単位の大きなことは動かせないけれど、私たちが世界の状況に目を向け、小さな事でもいいから、出来ることに取り組んでいくことで、世界中の子供たちの笑顔につながっていくことを願っています。